



菜の花カフェ

所在 阿蘇郡西原村小森2005番地
施主等 Noroshi西原

奨励賞



「菜の花カフェ」がある大切畑地区は、俵山の山裾に位置しており、熊本地震では集落内の約9割の建物が全壊、未だに多くの住民が集落外での避難生活を送っている。「菜の花カフェ」は、地震後、更地が増え変わり果てていく集落の姿に、一瞬でも心休まる景色をつくりたいと宅地跡や沿道に菜の花を植え、花畑の中に集いの場となるカフェを開いたものである。

本作品は、深刻な被害からの再建の過程で地域住民、ボランティアなど多くの人が係わり人々を癒す景観を新たに創出したこと、美しい景観づくりが人々に喜びを与え、地域の活力再生に貢献していること、人々の創意工夫により多面的で積極的な活動が継続的に推進されていることが評価された。

今後も活動が継続され、地域のポテンシャルを活かしながら、四季の移ろいを楽しみ人々を魅了する美しい集落として磨き上げられていくこと期待する。(審査委員 丸山 幸)



柿乃葉寿し本舗

所在 菊池郡大津町下町231番地
施主等 有限会社柿乃葉寿し本舗

奨励賞



「柿乃葉寿し本舗」は、大津町に広がる田園に浮かぶ島のように点々と存在する集落のうち、下町に建つ江戸時代の民家を改修した柿の葉寿司の販売と飲食のできる店舗である。

建物は歴史的建造物としての価値を損なわないよう柱や梁、小屋組、床組や床板、壁なども出来る限り保存することを心掛け、熊本地震で新しくせざるをえなくなった瓦についても本来の目板瓦を将来の復原に備えて敷地裏手に保存している。

庭園とその樹木についても恣意的に手を加えることをせず、一部樹木の移植にとどめた。乗用車の乗り入れのために新設された屋敷への入り口廻りでは、新たに石敷きや石積みがつくられたが、周囲によく馴染んで巧みである。

店舗に必要な機能とデザインを十分なものとしながら、建物や庭を含む屋敷構をよく保存し大津特有の景観の維持に大きく貢献している。(審査委員長 伊東 龍一)

